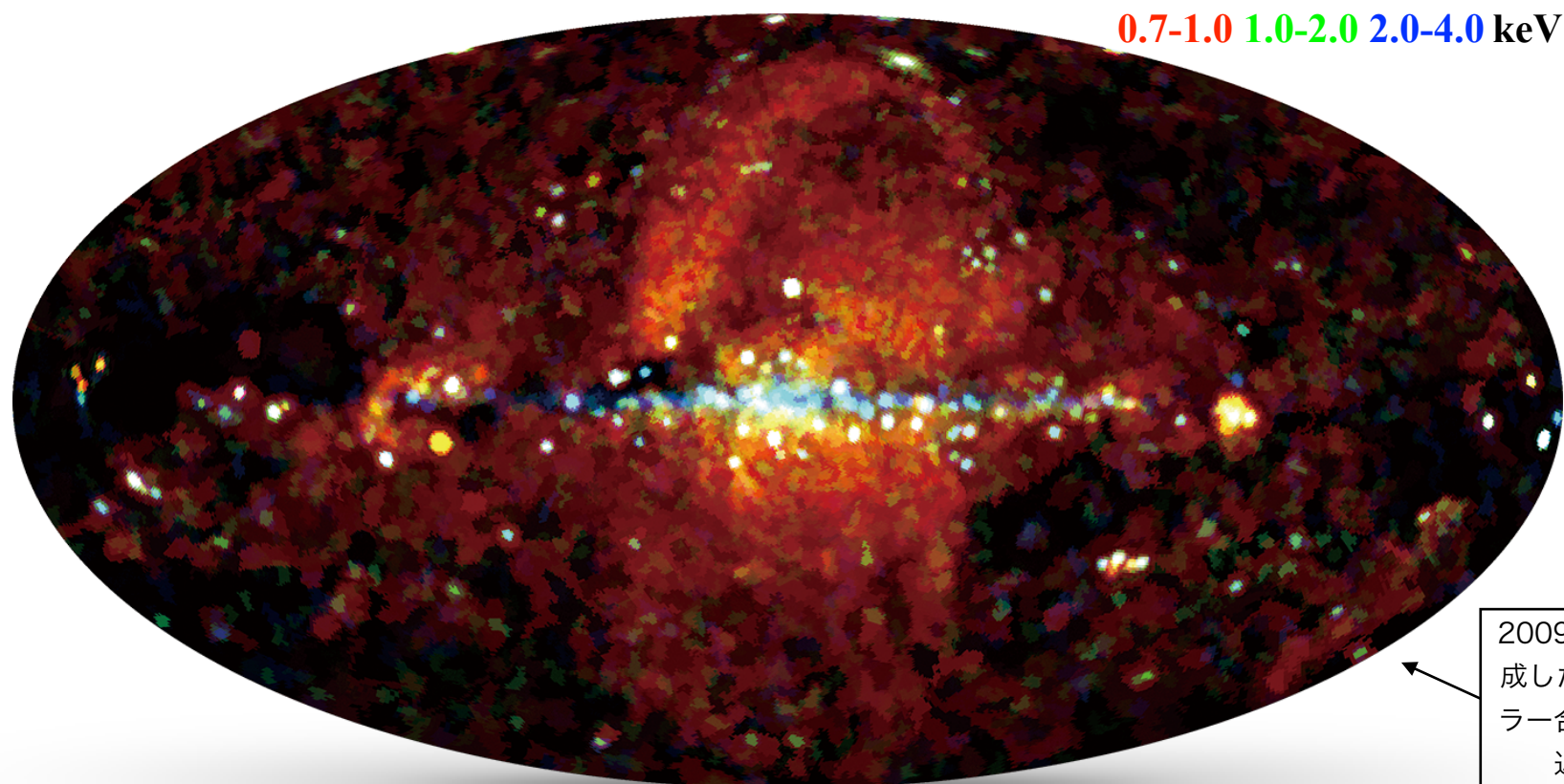


MAXI/SSCによる軟X線全天マップ

○中平 聡志(ISAS/JAXA), 常深 博(阪大), 富田 洋(ISAS/JAXA),
中島 真也(理研), 片岡 龍峰(極地研), 牧島一夫(カブリIPMU)

全天X線監視装置MAXIに搭載されたSSC(Solid State Slit Camera) を用い、世界で初めて高いエネルギー分解能を持つX線CCDによる全天マップの取得に成功した。ここでは10年半に渡る観測のうち、最初の2年間(2009年8月-2011年8月)に取得された0.7-7 keV帯域のデータを利用した。



この全天マップの論文
(PASJ accepted)
論文に掲載した画像(銀河座標
のイメージとhealpixを含む
Fits)は近々宇宙研のDARTS
から公開予定です。



SSCの10年間の運用と
全天マップ
(天文月報2019年12月号)

2009年8月-2011年8月の観測データを使って作成したMAXI/SSC全天マップ。3バンドの疑似カラー合成になっており、各バンドで、表面輝度が近い領域を空間的にグルーピングした。

エネルギーごとに分割した全天マップ

X線CCDの高いエネルギー分解能を活かし、細かいエネルギー帯域(主要な電離輝線の周辺など)に分割した全天マップを示した。それぞれの帯域でCrab強度を基準にスケールし、空間的には一様なビニングになっていて、スムージングをおこなっている。

